

発行所

 京都新聞丹波・乙訓販売所連合事業部
 長岡京市開田2丁目5-6
 京都新聞長岡京販売所
 ☎951-1244 FAX951-1651
 ✉kyo-asu@kyoto-hanbai.com


サンガを夢みて

 京都新聞丹波・乙訓販売所連合主催
親子サッカー教室

9月1日

京都新聞丹波・乙訓販売所連合主催の「親子サッカー教室」が9月1日、城陽市久世の京都サンガF.C. 東城陽グラウンド(サンガタウン城陽)で開かれた。公募で集まった乙訓や丹波地域などの親子約30組が参加、京都サンガ普及部のコーチ陣が、楽しい遊びを取り入れながらサッカーの魅力を伝えた。

教室では最初に、主催者の八木販売所・湯浅和也所長があいさつした。記念撮影の後、人工芝グラウンドで教室を始めた。5歳以上、小学3年生までの子どもたちが、保護者とペアになるなど、ドリブルやゲーム形式のプレーに歓

声を上げた。

約1時間の教室に向日市寺戸町から参加した中川琉陽君(第4向陽小2年)が「ママとボールの取り合いをして面白かった」と言え
ば、お母さんの陽子さんは「サッカーを始めたころは、あまり興味

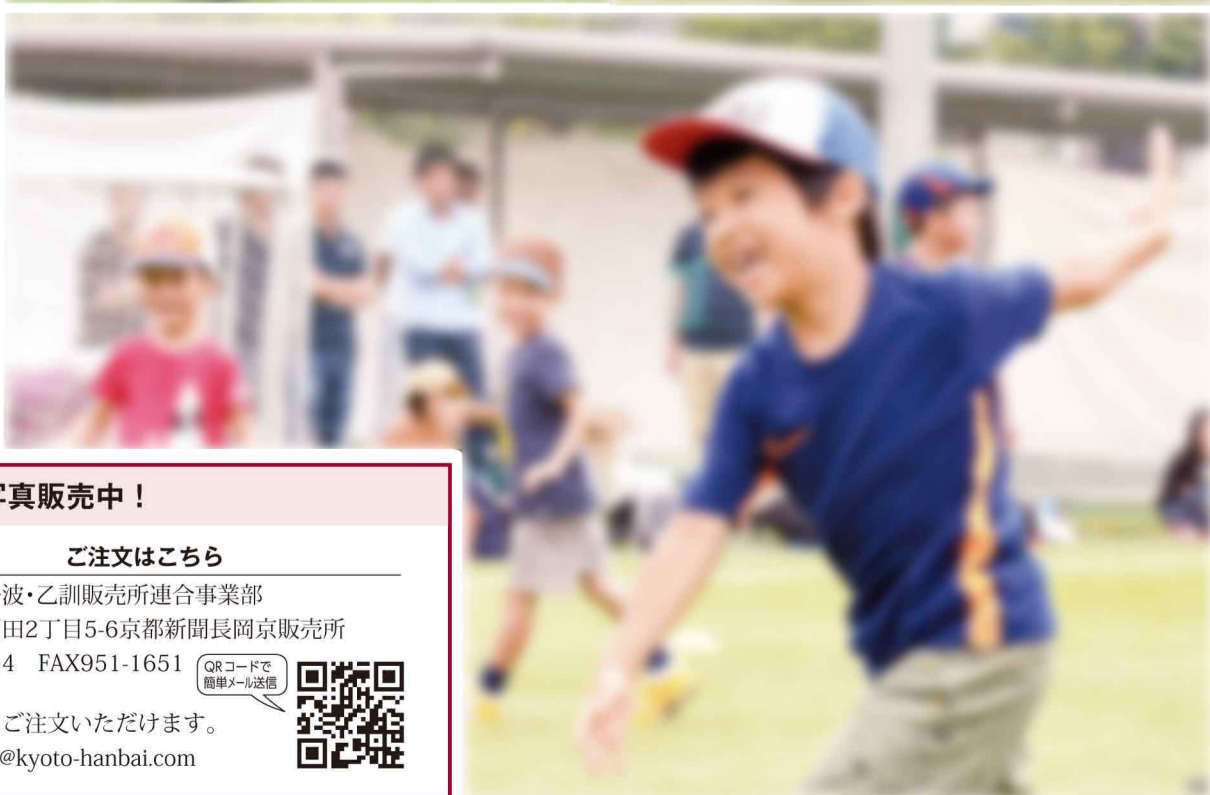
がなかったようだけど、サッカーのお友達もできて楽しそうです」と頼もしそうだった。

教室の締めくくりには、サンガグッズやサイン入りTシャツなどをプレゼントする抽選会を行った。





いっぱい!



「KYOアス」第13号掲載の写真販売中!

KYOアス 写真販売価格

サイズ	価格(税込)
A5サイズ 149mm × 210mm	1,340円
A4サイズ 210mm × 297mm	2,680円
A3サイズ 297mm × 420mm	5,360円

ご注文はこちら

京都新聞丹波・乙訓販売所連合事業部
長岡京市開田2丁目5-6京都新聞長岡京販売所

☎951-1244 FAX951-1651

メールでもご注文いただけます。

✉ kyo-asu@kyoto-hanbai.com

QRコードで
簡単メール送信





サンガ魂に触れて

笑顔やる気!



より良い紙面作りのため、アンケートにご協力ください。

質問①～⑦(任意)にお答えの上、郵送またはFAX、インターネットでお送りください。

アンケート送付先：京都新聞丹波・乙訓販売所連合事業部
〒617-0826
長岡京市開田2丁目5-6
(京都新聞長岡京販売所)
FAX075-951-1651
✉ kyo-asu@kyoto-hanbai.com



- ①お名前 ②ご住所 ③性別 ④年齢(年代)
- ⑤ KYOアス13号で一番お気に入りの写真を番号で教えてください。
- ⑥好きなスポーツを教えてください。
 - Ⓐ野球 Ⓑサッカー Ⓒラグビー Ⓓバスケットボール
 - Ⓔバレーボール Ⓕテニス Ⓖ陸上競技 Ⓗ体操
 - ①水泳 ②バドミントン ③新体操 ④柔道 ⑤空手
 - ⑥卓球 ⑦その他(競技名を教えてください)
- ⑦ KYOアスに関してのご意見、ご感想をお寄せください。

アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で1名様に、書籍「アス飯レシビ アスリートの体をつくる、おうちごはん」を1冊プレゼントいたします。



次号は12月15日発行予定です

取材：井上 年央 撮影：岸本 薫
制作：株式会社 京都新聞印刷

自分で考え、動く力を伸ばそう



京都サンガF.C. 普及部
加藤祐貴子チーフコーチ



今回の親子サッカー教室を指導した京都サンガF.C.の普及部では、15会場（うち滋賀県内1カ所）で毎週1回のサッカースクールを展開するなど、子どもたちにサッカー本来の楽しさを伝えている。2003年からプロコーチとしてサンガで活動している加藤祐貴子・普及部長に、子どもたちにサッカーを好きになってもらうこと、保護者の立場でサッカーとどう向き合おうかなどを聞いた。

親子で開くサッカー教室には、いろいろと良い面があります。特に、保護者の方々には、「子どもには子どもの人格がある」ということを理解していただく機会になると思います。また、家庭内で、サッカーという共通の話題ができ、親子のコミュニケーションに役立つはず。サッカー教室に参加した保護者の方には、見るとやるのが全く違うことに気がついてもらえると思います。結果、お子さんの試合やプレーに対する声かけの内容が変わるのです。「行け〜」「何でシュートせーへんの〜」なんて言えなくなるはず。ひとりの人として子どもをプレーを尊重し、寄り添った声かけができれば、選手である子どもも喜び、成長につながるはず。

最近の親子サッカー教室で感じるのは、保護者の方々に「サッカー世代」が増えてきた、ということ。少年時代にサッカーを経験したお父さんたちが増えてくると、子ども

さんも、ごく自然にサッカーをしてみよう、と思うようになってきたのではないだろうか。これからは、コーチたちの言うことを、その通り行うだけでなく「子どもが自ら考えて、行動する力」を伸ばしていきたいと考えています。

普及部の私たちとしては、指導した子どもたちが、日本のサッカー界を担うような選手に成長してほしいという思いは、もちろんあります。と同時に、日々の生活の中に、スポーツが自然な形で存在するというライフスタイルをつくっていきたいと思っています。（談）



亀岡に来シーズン

「サンガスタジアム by Kyocera」



京都サンガは来シーズン、京都府がJR亀岡駅前に建設中の専用球技場Ⅱ完成予想図Ⅱで、「感動の渦」を巻き起こす。京セラとのネーミングライツ契約により「サンガスタジアム by Kyocera」となる予定のこの球技場は、今年12月中にも完成する。

JR・亀岡駅前に姿を現したスタジアムは、天然芝のピッチを約2万1600席の観客席が囲む。その間に、陸上競技のトラックなどがなく、メインスタンドでは、最前列とピッチの間の距離はわずか8.5m。プレー中の臨場感、迫力は格別なものになる。全観客席を大屋根が覆うスタジアムでもある。

建物は4層。主な設備は、1階に「にぎわい創出エリア」や、選用手用、大会運営用の部屋などがある。2階は、VIP席を含むメイン、バック、南北両サイドの各観客席。3階は個室14室の「スカイボックステラス席」や放送ブース。4階に、バック、南北両サイド席、記者席などとなっている。

2020年オリンピックイヤーに京都サンガが新生スタジアムで、どんなプレーを見せるか。「これまで以上にサッカーの素晴らしさが伝わると思います。観戦した子どもたちが、華麗に、力強くプレーすることを夢見て、大きく成長してほしい」（京都サンガF.C. 普及部・加藤祐貴子部長）。京都のサッカーファンの願いでもある。

（完成予想図は、京都府提供）